

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400061		
法人名	(株)桜梅桃里		
事業所名	グループホーム 和楽の家 東児 (桜)		
所在地	岡山県玉野市西田井2256-1		
自己評価作成日	平成21年10月31日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390400061&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成22年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日笠CL(精神科)毎月第1水曜日往診 近藤医院(内科)毎週水曜日往診 プライムケアデンタル(歯科)毎週月曜日往診 訪問リハビリ 毎週水・土曜日 訪問理容 毎月第4土曜日 音楽療法 毎月第2木曜日 メルヘンパン 毎週水曜日 季節のイベント時各種ボランティアが来てくれる スタッフの研修制度が充実している。	認知症の専門医である日笠尚知医師が母体の理事である。 プライムケアの指導により、毎食後口腔ケアして頂き、口腔内清潔を保たれている。 日常生活を自宅に居る時と同じように暮らせるよう生活支援を行っている。 メルヘンパンを玄関前に横付けし、入居者が好きなパンを選んでいる。 毎日入居者と買物に行っている。 毎月1回勉強会を開催している。
---	--

一口に花と言っても桜や桃、それぞれに色や形が違い、咲く時も様々。人も生きてきた道程や環境が違ったり、老いて物忘れがあっても、ここなら安心して暮らせる。こんなホームにしたいという思いを、昨年の開設一周年記念の日に聞いた。そして今日、「この人もあの人も仲良し。私を助けてくれる」と話してくれたAさんを始めとして、利用者同士の思いやりや気遣いが一杯感じられる。「人の和」がこのホームに確かにあると思った。こういった雰囲気を出さず職員をサポートも素晴らしい。ホームが目指している理念に確実に近づき、2年という短い時間の中で数々の経験を積み重ねてきた職員の力量に感服すると共に、今後の一層の成長を期待している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時、各自介護理念を読み上げ理念の再確認してから仕事に入り、統一したケアを目指している。	「その人の今を大切に」「居心地の良さを感じてもらえるように」等、掲げられた理念を日々の生活の中に組み入れるための努力をよくしている。職員一人ひとりが半年毎に目標を設定し、管理者と共に評価している。	個々の職員の目標設定も大切であるが、ホーム全体、またはユニットで具体的な小目標を立て、評価し合うチャンスを作って見てはどうか。意欲を高めたりチームワークに貢献できると思う。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、入居者と一緒に買物に行っている。夏祭り等イベント時、地区の皆さんが来られ交流をしている。愛育委員の方々が話し相手等のボランティアに来ている。年間を通じて畑作りの際、地区の方との交流が図れている。	ホーム側の積極的な働きかけは勿論の事だが、この地域の愛育委員を始めとする協力体制や熱意は殊の外素晴らしい。各種行事や運営推進会議、そして日常のお付き合いの中で見られる。昨年の記念行事に参加した時もそう感じた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講師を招いて開所一周年記念講演を開催し、認知症の理解を得られるように地域の皆さんにも参加して頂いた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	七夕会、夏祭り、クリスマス会、防災訓練、その他イベント時に運営推進会議を開き、ホームでの活動を実際見て頂いたり気がついたこと等話し合い、質問あれば書面にて回答し、ご家族に送付している。	会議の規定も定め、2ヶ月に1回確実に開催している。自治会・愛育委員・地域包括・保健師・家族等、多数の参加がある。利用者との交流できる行事と組み合わせたり、また、会議では、良い意見交換ができています。	内容の濃い運営推進会議を確実に実施しているが、その結果の活用が十分でないと思われる。利用者の参加も行事に止まらず、運営に関する話し合いの場でも力が発揮されるよう工夫してみたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険担当者の方と連絡を密に取っている。	市の担当者とは指導を受けたり情報をお願いする等、良い協力関係にあると思う。運営推進会議には地域包括支援センターの職員や保健師等の参加もあり相互理解が深まっている。市の相談員の協力を得て、ホーム職員が参加しない「家族会」を計画している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をして、本施設の現状把握をしている。ベッドサークル使用者の身体拘束に関する経過記録を記載している。日中は開放しているが、夜間帯(18:00~9:00)は玄関施錠している。	「この家はいつでも外へ出られるから、ぐっと回って来られ」のBさんの言葉に従ってホームを一回りしてきた。オープンな感じのホームで、身体拘束や虐待についても、利用者の立場に立ってよく学習している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういった事が虐待なのかと言う事について勉強会を開いている。スタッフ間で注意を合わせるような関係作りを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会等を通して学ぶ必要性を感じている。今後の課題としていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行うのは本社役員、施設長で行っている。十分な説明を行い、不明なところを質問として受け入れている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、家族や地域の人に内容を知らせている。意見や要望を聞いて、それに対する返事も文章で送付している。	日頃の家族の訪問時や運営推進会議・行事参加の時等に職員は家族と出来る限りコミュニケーションを図るよう努力している。職員に直接意見を言うのが難しいかもしれないとして、現在「家族会(市の相談員の協力)」を計画している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者がスタッフに運営についての意見をしっかり聞き、本社に改善をして貰っている。	本社会議や主任会議を通してホームの運営に関する意向が職員に伝わり、ホームのミーティング等で出た意見や提案内容が管理者等を通して社に伝えられている。半年に1回、職員と個人面談もしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者がスタッフに待遇についての要望や意見をしっかり聞き、本社に改善をして貰っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修から始まり、1ヶ月、3ヶ月、半年、1年をめぐりにホーム内で研修をしている。また、状況に合わせて外部の研修も受けさせている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他グループホームや介護保険課と年2回会合を持ち、情報交換やそれぞれの取り組み等を発表している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活史を理解し、それを踏まえた上で統一した利用者支援を心掛けている。尊厳を持った関わりを目指し、各々の利用者の思いを傾聴するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧な面接を通しての家族のニーズを把握し、家族の精神的負担孤立を軽減できるよう努めている。家族と連携しながら入居者の生活環境を整えている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通して得た情報を元に、アセスメント後1ヶ月を目途にした暫定プランの作成、入居後再アセスメントをし、その時の状態に応じたプランを立てる。必要あれば、他のサービス利用も視野に入れる。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居後のこれまでの生活史を把握し、家事、料理等できることはスタッフと共に行い、役割を持って生活できるように配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族通信を送付し、担当スタッフが1ヶ月の生活の様子を記入し情報を共有している。運営推進会議には行事を組み、多くの方に参加して頂けるよう努め話し合いの場を設けて理解を深めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院、病院への受診等家族の協力を得て行っている。	家族ともよく連絡を取り合い、状況が良ければ自宅へ帰り、家族と共に過ごす支援をしている。友人や知人等、昔馴染みの人の面会をお願いしている。買物や食事、受診やドライブ等家族の協力も得ている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時等、スタッフが入居者同士のコミュニケーションが取れるよう支援している。入居者同士の相性を考慮し、共同作業を進めている。居室で過ごす事の多い方は、共にお茶や会話を楽しむ時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子を尋ねたり、必要に応じて家族との支援作りに努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループワーク時に現在生活はどうか、どうしたいか尋ねたり、話の中で皆さんの思いを話してもらい、状態が変化すれば、その都度職員全体で考えている。	何人かの利用者がソファで寛ぎ、歌やお喋りを楽しんでいる時、職員が上手にそれぞれの思いを引き出そうとしている場面に出会った。思いを「川柳」という形にしつらえて、繰り返し「ときめき」につないでいるのが良い。	私の短時間の訪問中でも、利用者の思いや意向が十分伝わってくる程、この住人は今まだ生き生きしている。「宝物」のようなこんな思いをメモに残しておく方法を皆で考えてみたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴、生活史、職歴、趣味等入居に至るまでの経緯を充分把握する。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の日課表に沿った生活の中で、残存機能を生かし生き生きとした暮らしが出来ているか現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月個別カンファレンスを行い、課題あれば話し合い改善を目指している。又、家族の意向も事前に聞いている。	各担当者が利用者一人ずつ1ヶ月間の状況や問題等をカンファレンスシートにまとめ、毎月そこに出た課題について職員間で検討し合っている。家族の意向も聞いているが、利用者本人の思いをもっとプランに取り入れたい。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の日常の様子、スタッフのケアの実践状況等細やかな個別記録を通して情報の共有を図り、介護に生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、家族と何度も話し合い柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域で生活できるよう、家族、地域の方と意見交換する機会を設けている。運営推進会議に市関係者、地域包括支援センターの方が参加し、周辺情報等の情報交換、協力関係が築けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医、入居前のかかりつけ医での医療が受けられるように医療機関と関係を密に結んでいる。必要に応じ家族と共に同行し、普段の様子を伝えるようにしている。近況の情報提供書を送付している。	近くの協力医は週1回往診に来てもらっているし、昨年のターミナルケアでも非常に綿密な連携と支援を頂いた。訪問歯科医チームも週1回口腔ケア・治療に来てもらっている。ホームの母体が認知症専門医なので安心できる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に入居者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。体調や些細な表情の変化でも気付いたら報告し適切な医療につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師と話しをする機会を持ち、施設内での対応可能な段階で早く退院できるようアプローチしている。入院時には本人に関する情報提供している。出来るだけ面会に行き、家族と回復状況等情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、施設が対応しうる最大の支援方法を踏まえて方針を職員で話し合っている。家族の意向を聞き、医師、職員が連携をとり、安心に納得した最期を迎えられるように随時意思確認を行いながら取り組んでいる。	ホーム開設2年目で、2つの病気もあり重度化したDさんをここで看取る経験をした。その時は、「私達に出来る事は何か？」に日々懸命に立ち向かったという管理者だが、本人・家族はもとより、職員も得る事が多かったらう。この経験を踏まえて、終末期に向けた取り組みについて改めて考えて欲しい。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施して、入居者が急変した場合の緊急時対応についてマニュアルを作成し、職員が落ち着いて対応出来るようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で消防署の協力を得て防災の勉強会の後、入居者、家族、地域住民と共に避難経路の確認や消火器の使い方の訓練を行った。それ以外にも、火事を想定した避難訓練を行った。	年2回災害対策として避難訓練等を実施している。実際には利用者も訓練に参加してみたい、利用者同士声を掛け合ったり助け合ったり場面が見られた半面、問題点も見付けられたと言う。今後もこういった訓練は続けたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	色々な場面での援助時のプライバシーを尊重したケアを心掛けている。入居者を、人生の先輩であるという事を意識して声掛けを行っている。全入居者に個室を用意し、プライバシーを保てる空間を提供している。	このホームでは炊事その他の仕事をこなしている人が多く見受けられるが、本人の自発的な意思をよく尊重している。トイレ介助でもその人のプライバシーを出来る限り大切にしようとして、「やりすぎる手助け」に気をつけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、コーヒータイムで入居者の間に職員が入り、グループワークを行っている。(主役体験)外出、行事食等は、グループワーク時等に入居者の意見、希望を聞き入れている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、毎日の生活を自分のペースで行えるように職員側の都合を押し付けないようにしている。買物、調理、散歩等望まれることで、職員と共に楽しめるよう個別対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時、お化粧品等のお洒落を楽しんでもらえるように取り組んでいる。更衣時は好みのものを着て貰うようにしている。訪問理容利用しているが、行きつけの店がある方はその店を利用できるよう連携をとっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、後片付け等入居者と一緒にして食事は同じテーブルを囲み明るい雰囲気での食事を心掛けている。毎朝、一日のメニューの発表を行い、その話をする事で食事への意識が高められるよう努めている。	元気で人の役に立ちたいと言う利用者の気持と、職員の誘いかけがうまくマッチして、食事の為に働く人が多い。百歳に近い男性も取り分けが上手、皆で作った料理なので話も弾んで美味しい。当然のことだろう。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはバランスを考えて職員が全て考えている。水分、食事摂取量の把握を行い個々の体調管理に努めている。体調等により、食事が摂れない場合は高カロリーの補助食品や、本人の好むものを提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って状態に合わせ介助仕上げ磨きをしている。訪問歯科利用しており、口腔ケア方法の指導も職員が受けている。週2回、義歯洗浄を行い、清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄状態を把握し、一人ひとりのその日の様子を観察し、失敗なくトイレで排泄できるよう支援している。個々の状態により時間帯に合わせた紙パンツ、パット類使用している。	「その人らしく、尊厳ある暮らし」を考える時、排泄の自立支援は最も大切にしなければならぬ事として、出来る限り失敗のないよう配慮しながら支援している。また、おしめも可能な限り使用せず、それぞれに合わせたパンツ・パットで対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、起床時には牛乳飲んだり手作りヨーグルト、バナナ等の食材を積極的に提供している。また、何種類もの飲物を用意し、しっかり水分補給している。薬に頼らないよう、しっかり体操する。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の意向に添い、異性の職員が駄目な方には同性諸君と交代し、仲の良い方と一緒に入浴したい方は複数である。夜間入浴も対応している。お風呂が好きで毎日入浴している方も居る。	少なくとも週3回は入浴するようにしている。入浴拒否の人も居るが職員は色々な手を使って支援している。風呂も暮らしの中の楽しみの一つとして、連れだって入っている。お互いの助け合いや心配りも見られて嬉しい。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活ペースで午睡したり、心地良く眠りにつけるよう日中の活動に配慮している。入居者一人ひとりの体調、年齢、表情を観察し、ゆっくり休息が取れるような支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は日付、名前、時間を声を出して自他共に確認を行い服薬している。薬の処方や容量に変更があった場合は詳細に記録して状態観察し、異常あれば医療機関との連携も図っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報や、入居者との会話の中から趣味や役割を探し出し、一人ひとりの嗜好に合わせて楽しんでできるように支援している。遠出の外出や季節毎のイベントを行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者と共に買物に出掛けたり、散歩、日光浴等戸外に出れる支援をしている。四季の景色や雰囲気を楽しめるよう季節毎のペースで遠出をしている。	計画的なイベントで野外出の他に、近くを散歩したりスーパーへ買物に行ったりしている。「今日は寒そうだから、この家の周囲を一周してくる」と言う人も居た。家族と一緒にうどんを食べに行ったり、お地藏さまへと言う人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足の為、家族と相談しながら小額を手元に持ってもらい、自分で買い物ができるようにしている。それとは別に家族から預かったお金を事務所が管理し、買い物等で使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がかかると相談室にて話をし、頂き、ゆっくりと電話が出来るようにしている。年末には年賀状を出せるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール内には季節の花、季節の作品等を飾り、季節感を取り入れた雰囲気作りをしている。	ホーム内の空間は広く高く、全体的に明るい。居場所も数多く設定されており、壁面も作品や写真・花等でこの生活感が溢れている。周囲の敷地もゆったりと広く、利用者が活躍する菜園もある。玄関前には、氏名入りの花のプランターも見られた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にテーブル、イスを置き一人で過ごしたり、家族と寛ぎながら外の景色が見えるようにしている。玄関にイスを置き、入居者同士が写真を見ながら寛いでいる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたベッド、タンス等を置き、本人が使いやすいように配置している。思い出の写真等を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。プライバシー保護の為、居室の入口に長めの暖簾を掛けている。	それぞれの利用者にふさわしい家具や馴染みの物を置いてもらっている。ベッドからの転落を避けてスノコの上にマットを使用している人も居る。思い出で野写真や作品(例えば玉葱の皮で染めた美しいハンカチ)も見られた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかる力を見極め、トイレ、居室、洗面所等に目印をつけたり物の配置に配慮したり、廊下、トイレ内、洗面所、風呂場等に手摺りを設置している。		